

健康教育

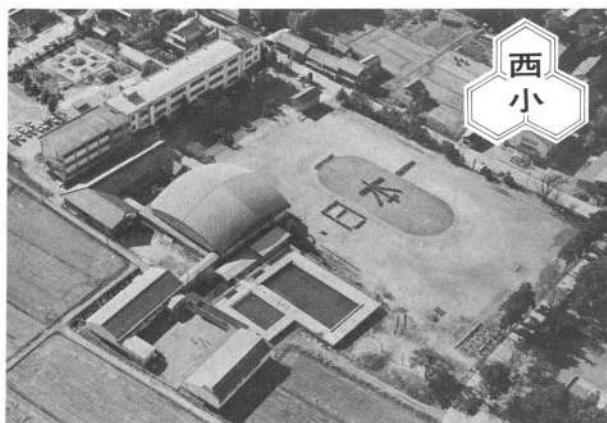
- ☆ 自らの力で深めひろげる健康教育…………… 2
- ☆ 全日本健康優良学校日本一の栄に浴して…………… 5
- ☆ 日本一の誕生を称えて…………… 8
 - 栄誉をたたえて……………10
 - 健康優良児授賞式に参加して……………11
 - 日本一になって……………12
- ☆ 「日本一健康優良児」誕生を喜ぶ ……13
 - 「日本一おめでとう」多恵子さん ……15
 - 娘の健康日本一に思う……………17
 - 日本一健康優良児に選ばれて ……18
- ☆ 全日本特選健康優良児童になって……………20
- ☆ アメリカのダリー・シティー・スクールを参観して……………22

昭和52年度全日本健康優良児童

朝日新聞社提供



NO 74



滋賀県東浅井郡浅井町立浅井西小学校

校長 松山 隆

自らの力で深めひろげる健康教育

——地域への浸透化を求めて——

1. はじめに

はからずも、本校が、昭和52年度小規模校日本一健康優良学校に選ばれる光栄に浴した。

吾々同人は、県健康優良学校としての実績の上に、更に、今回の教育課程改訂の趣旨を汲取り、「豊かな人間性の育成」をめざして、

特に

- 手段としての健康ではなく「健康のための教育」の追求
 - 「教える教育」から「こども自らが学びとる教育」への質的転換と、その方途の追求
 - 家庭・地域のすみずみにまで浸透する教育の実現
- 以上3つの柱をたて、全校、全学区をあげて、その充実推進につとめてきた。

2. 地域の概要

① 浅井町の概要

わが浅井町は、滋賀県のシンボル琵琶湖の北東部に位置し、人口約12,000、面積約87K㎡（山林70%）

戦国時代、織田信長の妹お市の方をめとり、その信長に亡はされた悲運の武将「浅井長政」にゆかりの地である。

米作中心の農業と林業を主産業とし、一時過疎の波に洗われたが、近時、工場誘致・観光事業推進等により、人口も漸増傾向。

冬期は積雪多く、1メートルに及ぶこともしばしばである。

町内には5小学校2中学校がある。

教育優先、健康福祉の充実等の施策により設備施設も逐次充実し、保健管理も進んできた。町体育協会の活動も活発である。



② 校区の概要

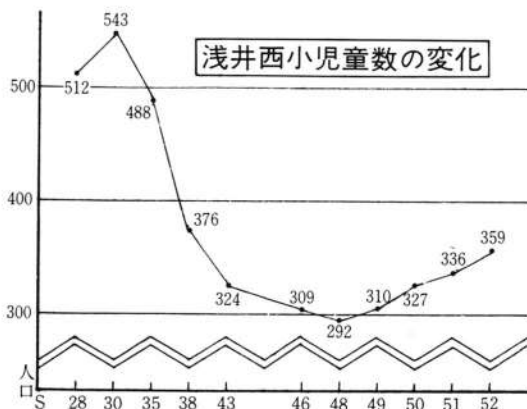
当浅井西小の学区は、浅井町内の西部に位置し、戸数約870、人口3,500人

学区内には町役場、浅井中学校、町民体育館等が集まり、町内の中枢的な役割を果たす学区である。

なお、東海一北陸を結ぶ国道365号線が学区内を縦断し、近時、交通量が激増しつつある。

民情は誠実であり、児童の体位体力への自覚から、各部落ごとの健康づくりへの活動が、逐次たかまってきた。

3. 学校の概要

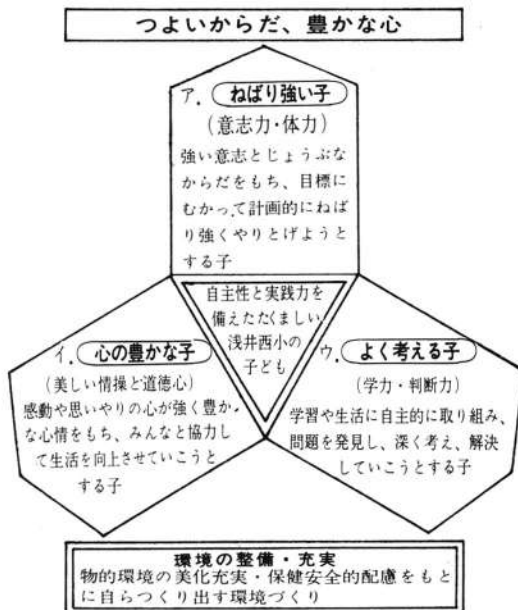


本校の創立は明治8年。

最近の児童数は、上表の如く、漸く過疎現象から脱却のきざしが見えてきた。

現在、児童数359名、県費職員18名、学級数は、普通学級11、精薄学級1の小規模校である。

4. 学校経営の視点



	主 な こ と が ら	そ の 他
明治8. 10	覚明学校創設、大字内保、十字坊に仮校舎	
26. 4	全村ひとつに統合、湯田尋常小学校と改称	
33. 12	大字内保「堂の北」に校舎新築（現在地）	
昭和22. 4	学制改革により、湯田村立湯田小学校となる	7月 父母と教師の会（PTA）創設
23年～26年	県教委指定、新教育実験学校として研究に取り組む	
29. 10	町制施行により、浅井町立湯田小学校となる	
32. 9		県立整肢園が当校の分校となる
34. 4	校名が浅井町立浅井西小学校となる	11月 PTA、県教委より表彰を受ける
35. 11	校舎（本館）新築工事（1期）竣工	4月 浅井町立西幼稚園併置
38年～39年	県教委指定、放送教育研究に取り組む	
40. 12	体育館新築工事竣工	
41. 4	特殊学級（精薄児学級）設置	
43. 6	はじめて児童会主催球技会、こども研究発表会等実施	3月 校舎南側築山および花壇完成
44. 9	全日本よい歯の学校表彰会より受賞（以後S.51迄連続）	12月 特別教室（2期工事）竣工
46. 2		PTA活動について県教育会より受賞
47. 6	フラワーブラボーコンクール優良賞受賞（中日新聞社）	7月 プール竣工
48. 2	県学校安全優良校として受賞（学校安全会）	
48. 10	健康優良学校県1位（小規模校）受賞（朝日新聞社）	
49. 2	算数教育について県教委より教育奨励金を受ける	3月 整肢園児県立養護学校へ移管
49. 11	健康優良学校県1位（小規模校）受賞（朝日新聞社）	
50. 10	全 上	
〃 11	創立百周年記念式ならびに諸事業実施	
51. 11	県代表健康優良学校として受賞（朝日新聞社）	10月 全国優良PTAとして 文部大臣表彰をうける
52. 7	県代表健康優良校として中央審査に書類提出	
〃 11	昭和52年度小規模校日本一健康優良校として受賞	

①教育目標

教育課程改善の趣旨をふまえ、体徳知の調和のある豊かな人間性の育成をめざし、

「つよいからだ、豊かな心」に焦点をあて、つぎのような目標を設定し、学年化、学級化をはかりつつ、日々の歩みを続けている。

「自主性と実践力をそなえたたくましい浅井西小の子」の育成をはかる。

② 学校経営の重点

○ 基本的態度

校長のリーダーシップと全教職員の共同体的経営意識を基盤に「健康」とは教育の目的概念であることを確認し、教育愛にみちた学校経営を推進する。

○ 研究的態度

「教えることは、学ぶことである。」の信条に徹し、

教育課程改訂の精神を汲取り、計画的な研究体制確立とともに、特にこどもとのふれあいを重視し、効果的な教育活動の創造と展開をはかる。

○ 環境の整備充実

保健安全的配慮はもとよりであるが、こどもの立場から、活動しやすい環境を、みんなの力で創り出していく配慮をだいにしたい。

○ 「地域ぐるみ」の教育の充実

学校・家庭・地域三者一体の姿においてこそ真の教育は向上する。

今日迄の積上げをさらに深め「こどももおとなも、ともに伸びる地域ぐるみの活動」を、より浸透、定着化させる。

5. 本校の特徴的な活動

① こどもの自主性に訴える教育の研究体制の充実と実践



集団登校後話合いの子ども

特に、「自ら進める場」を設定し、1時間の授業の中のみならず、こどもの活動するあらゆる場に生かすよう考慮している。

② 学校保健委員会の組織と活動の充実

こどもの代表を組織に組入れたことはよろこばれ、議題も、管理面のみならず「保健の日の活動」「テレビなしデーの設置」「ごみなし運動の展開」等、生活に密着したものが取上げられるようになった。

なお、「各字別健康づくり推進会」の活動は、地域ぐるみ活動の源となり、毎月の「保健の日の活動」は、各字、各家庭に浸透し、保健安全面への関心昂揚の足場となっている。最近「心の健康」としての親子読書運動も逐次ひろまってきた。

③ 学校保健計画の改訂と指導の充実

保健教育・保健管理・組織活動の三面から検討を加

え、特に「学級指導」については、各学年「保健、安全」それぞれ、年間配当を多くし、また、個に即した立場から、「健康実行目標」を定め、健康習慣も定着化してきている。



「保健の日」マラソンの出発

④ 創意を生かす児童の活動の充実

こども達の生活に直結した「ひとりー研究」も質的に向上し、児童会活動も、児童集会、ごみなし運動の展開等、こどもなりの発想を生かした活動が展開され、しかも、学校内から学校外へと逐次拡大されつつある。

⑤ ユニークな体力づくり活動の継続



業間活動の一こま

こどもと教師が一体となった「朝のかけ足」から1日の日課が始まる。その他多面的な業間活動、「健康づくりカード」の活用、浅井西小テレビ体操(雨天時)等、主体的なこどもの活動の継続により運動能力も向上し、風邪による欠席率も逐年低くなってきた。

⑥ ゆたかな心を育てる学校環境の整備

職員・PTA等の共同作業により、自作遊具が設置され、また、念頭の運動場芝植は先ずフィールド内が完成し、ともに、こども達の魅力をひくようになった。

さらに各教室の「保健コーナー」「健康観察板」の設置活用は、「自ら保健すること」の育成のための好素材となっている。

6. おわりに

紙面の都合で、実践の一部しか述べられなかったことを、まず、おわびしたい。

健康優良学校日本一 ……それは、本校の教育にとって、喜ばしい、ひとつの前進のための契機であると把握したい。

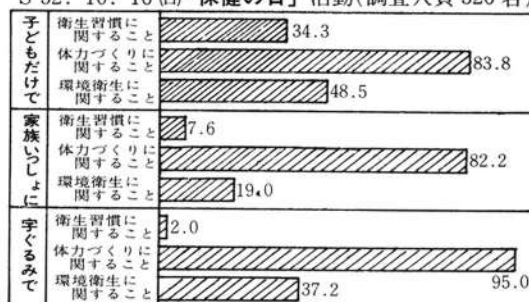
現実には、経営や実践の中に、いくつかの問題点が残されているのが、いつわらない現状である。

時あたかも、新指導要領への移行措置の時期に入るわけであるが、本校の歩みについて、全国の先生方から暖かい御指導を仰ぎつつ、ゆとりあるしかも充実し

た学校経営創造を模索する中で、「自らひとり歩きのできる子ども」の育成をめざして、遅々たる歩みながらも、一歩々々さらに教育実践をたかめていくことに、情熱を燃やしていきたい。

保健の日活動グラフ

S 52. 10. 16 (日)「保健の日」活動(調査人員 326 名)



全日本健康優良学校日本一の栄に浴して 生活化をめざす保健指導 一心と体の姿勢づくりー



愛知県瀬戸市立下品野小学校

保健主事 武内 豊

11月3日文化の日に朝日新聞東京本社で表彰を受けた。その折、本校がどのような点が良くて受賞したかをある審査員の先生にお尋ねしたところ、要約すると次のような点をあげられた。

1. 児童の活動がすぐれていた。
2. 地域の協力態勢がよくできていた。
3. 瀬戸という地域性を生かしていた。

いつも、その中にいると学校の良さというものが分りにくいものであるが、審査員の先生に指摘を受けて初めてなるほどと思ひ当る節があった。そこで、その点について述べることにする。

1. 児童の活動状況について

本校では一昨年の冬から薄着運動を試みた。

まず、その準備段階として夏休み以前に「今年の冬は出来るかぎり薄着をさせたい。特に男子は半ズボン、女子はスカートで生活させたい。そのため、夏の間にしっかり太陽に皮膚をあてて鍛えておくように」と児童は勿論、家庭にも連絡して了承を得ておいた。また、学校保健委員会の席上、校医さんや保健所長さんのご意見も聞き実施した。

12月に入り、だんだん寒くなると「こんなに寒いのにそんな服装をさせて風邪でもひいたらどうするのか」

とか、「鳥肌になっているものを見るとかわいそう」というような声が聞こえてきた。然し、実行している児童達はその割に平気なようであった。



雪の中でも元気なマラソン

学校では例年12月になると各教室にストーブを設置し、10度以下になると火を入れるきまりになっている。それで、その年も一応12月にストーブを設置した。然し、上旬のある日、児童会の係の先生から、「昨日の児童会で、児童側より『折角、薄着運動を始めたのに暖房しては寒さに負けることになるから、少なくとも12月いっぱい火を入れないことにしよう』という提案があり、そのように決定したから各学級とも協力願いたい。」という発言があった。

本校学区は、瀬戸の東部にあり、中心部よりは1～2度気温が低い。そういう中で、ほとんどの児童（病気の者以外）が薄着でがんばり通した。

——その結果——

- 市内でも相当数の学校が学級閉鎖をしたが、本校では、その事が原因かどうかは定かではないが、どのクラスも風邪で休んだ数は最高12～13パーセントで、閉鎖をするまでには至らずにすんだ。
- ぜんそくの児童が2人いるが、その子たちも友達につられて薄着でがんばったためか、その冬は発作もおこらず、親御さんも喜んでみえた。
- 1月以降も、ストーブをつけたのは数えるくらいしかなく、燃料費が大分、節約できた。

2. 地域の協力態勢について

本校の学区の保護者（父親）は殆んどが本校の卒業生である。そのため、「おらが学校」という気持で、作業にも積極的に参加してもらえる。写真の遊具作り

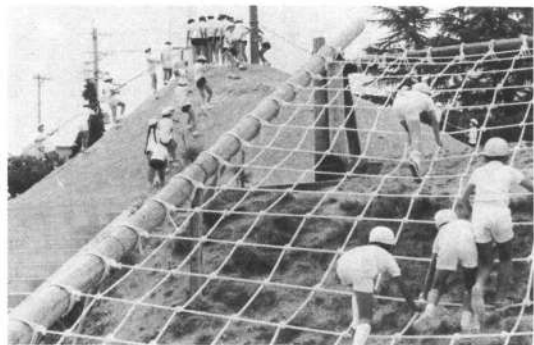
もその一つである。



PTAによる施設作業

例1.

このネットクライミング作りの時も、あまりお金をかけないで作ろうということになり、先ず、材料の電柱は電力会社から下請けの会社に頼んでもらい、その好意で木材をもらって枠組みができあがった。次にネットであるが、これは綱を買い、父兄の手で編みあげたが、それを枠に結わえるのが非常にむずかしかった。というのは、下手に結びつけると緩んでしまう。何度も失敗し、最終的には消防のレンジャー部隊にお願いしてみた。さすがに綱を張ることにかけては専門家で、ネットの弛まないように結んでもらえた。こうして、現在も児童達は喜んで利用している。



子供達の活用状況

例2.

学校では各家庭に呼びかけて、親子の体力作りを家庭で行ってもらうようにした。そして、そのことを学校保健委員会の席上でテーマとして討論し

「私の家は私が一人で陶器作りをしているので、なかなか子どもといっしょに体力作りをする暇がありません。それで、日曜日に子どもとこの付近の山へ、よく出かけることにしています。そのわけは、山を歩きながら呉須（磁器の染付に使う藍色の顔料）を探すためです。今は、この呉須も非常に少なく、なかなか見つかりませんが、山歩きをしながら、古窯の話や陶器の話をするによって親子の対話が生まれ、歩くことによって自然に体力作りもできると思います。それで、この呉須探しが、わが家の体力作りと思っています。」

本校のある品野町は昭和33年に瀬戸市に合併したが、合併以前からも瀬戸の隣接町ということで当然窯業は主産業であった。ただし、その規模は小さく殆んどが家内工業的である。窯業といっても、製陶業あり、販売業（問屋）あり、また、仕事が分業化されているので、家で内職としての仕事ができる。

例. 図エクラブ

ねん土をクラブの時間にかめから取り出し、足でふんでやわらかくする。専門家は手で練るが、児童は力がないため足で練る。この練るという作業は、土をやわらかくするだけでなく、練ることによって土の中の空気を追い出す役目も果たしているそうである。（こうして使うことを土を殺して使うという由）

作品によっては素焼きされた物に釉薬をかけて再度焼くと、本焼きの作品ができあがる。

健康指導については、優良学校として県代表に選ばれたような学校は、どの学校も相当実践してみえると思うので、その点は省略し、簡単であるが本校の多少特徴的な面のみを紹介したような次第である。

最後に、たいへん立派な賞をいただいたがこの責任は重く、今後、この賞に値するだけの実践を積み重ねて行くことが、われわれに課せられた任務である。大方のご指導を乞いつつ拙文を止める。

[illegible]



日本一の誕生を称えて

山形県寒河江市立寒河江小学校

校長 村田 賢 士

1. 消え去らぬ胸のときめき

——感動を教育の場に——

健康優良児日本一、鬼海武俊君。本県初めての栄冠に輝いた。

11月1日、私は新教育課程に関する研究協議のため、朝日少年自然の家で会議を進めていた。会の終る夕方、自然の家の職員が、私に、学校から電話が入っていると知らせてくれた。会議出張中は、重要な問題のない限り教頭が処理することになっていたから、何事かと不安を覚えながら、急ぎ受話器を手にしたのである。

教頭は「うれしい知らせです」との前置きをし、私の不安を先ず除いてくれて、「武俊君が、中央審査で日本一に推薦されたとの、朝日新聞社山形支局からの連絡です」と、一気に報告してくれた。

然し、発表が3日と聞いていたから、半信半疑であったが、本校から昭和44年に特選に選ばれた角田君が、東京の大学生として、晴の舞台に参加した後輩の為に、お世話をしていたとか。その角田君からも、鬼海君の日本一決定の知らせがあったとの報告を受け、始めて、「日本一」の快挙に、胸をときめかし感動を覚えたのである。

その瞬間、年甲斐もなく、声が震え、目頭の潤むのをどうすることも出来なかった。

早速会議に集まっていた地区小学校長41名に、この栄誉を報告。全校長は、思わず万歳を叫び、心から祝福してくれた。

日頃、東北の後進性を打開するために、学校教育の推進を叫んで来た私達校長に、この快挙は、地区教育の自信と勇気を振り立たせずにはおかなかった。

10月、県審査会で、県一位に選ばれ、全国10名の「特選健康優良児」だけでも素晴らしいことであるのに、日本一の折紙をつけられたことであるから、その感激

は涙のこぼれるのも当然であった。本校の名誉であるばかりでなく、山形県の誇りでもある。県教育長から早速の祝電を受け、心から喜んで戴き、更に感激を深くした。特に本県の教育基本目標の中に、「うるおいのある人間性豊かな県民の育成」「健康でたくましい県民の育成」を掲げ、新しい時代に即応する教育の推進を目指しているだけに、武俊君の快挙は、本校の職員は勿論、児童たちにも大きな自信となったことは言うまでもない。

中央審査にあたられた先生方から、努力することの大切さと、心と体の調和した子ども達ばかりであり、将来の日本を担う、理想的な少年少女の代表だとの励ましの記事を思い起こしながら、現場の学校教育の活力として、生かしていきたいと念願している。

2. 厳にして静、慈にして細

——家庭教育の輪を広く——

日本一の栄誉を得た鬼海君は、誕生時未熟児だったという。調理師を職とする父の秀夫さんは、家庭の食事は一切奥さんの美代子さんにまかせ、家庭では腕を振るわないと語ってくれた。それだけに、奥さんは、食事には、相当気をつけられた模様である。

日本一を祝う会席で、奥さんは、こうも語ってくれた。

子どもの食事に好き嫌いが生ずるのは、父の影響にあるらしいことを知った。それは、父が「うまい」と言って食事をした時は、子どもも「うまい」と言って食べたし、「うまくない」といった時は、子どもも又「うまくない」と言って食べる傾向があることを発見した。

だから、子どもと一緒に食事の時は、何でも「うまい」と言って食べて戴くようお願いし、喜んで協力して戴いたということである。

その後は、好き嫌いは言わず、喜んで何でも食べるようになった。

小学一年の入学の頃、学校給食になじまぬために、学校生活そのものに悪影響を及ぼしている例は少なくない。未熟児の武俊君が、日本一の栄冠のかげに、このような細かい配慮による愛情が秘められていることを知った。

更には、父親は、格別に神経質に健康に関して気をくばってはこない。最近では早朝マラソンを続けているが、時おり自分も参加したりもした。何事につけおおように育てて来た反面、4年生頃までは、唯々食事と睡眠時間だけは、規則正しく続いたという。

まさしく家庭教育の根本を、徹底してこられたのだと思う。最近の子どもの育て方に甘やかしが多すぎる風潮は、結局は子どもの心と体の成長に悪い結果を生じていることを反省させられてならない。

審査会には、父親の秀夫さんが付添われ、母親の美代子さんは、表彰式の時に上京する計画であった。日本一の知らせを受けた美代子さんは、体が震えてとまらなかったという。

厳にして静なる父親と、慈ありて細なる母親の教育があればこそと思う。だからこそ、日本一に相応しいだけの、体位・体力・豊かな知識、更には心の健康と相まって、立派な性格の持ち主となったのだと信じていたい。

帰校後、県知事、県教育長を始め市長他関係各位を訪ね「これからがんばります」と力強く挨拶する武俊君に、激励と祝福をして戴き、心からよろこんで戴いた。終生忘れ得ないことであろう。

鬼海君は、今も変わらず、マイペースで生活を続けている好少年である。

3. 限りなき前進のために

——学校・地域・家庭一体の教育を——

本校は、寒河江古城二の丸跡に建築された学校で、北に、出羽三山を仰ぎ、南に蔵王を眺め、三大急流と称される最上川と、清流寒河江川に囲まれた山紫水明、さくらんぼの里として知られる寒河江市の中央に位置する環境にある。

現在は、児童数1400名、37学級の規模であり、昭和48年創立 100周年記念式を挙行した長い伝統と歴史をもつ由緒ある学校である。

私たちは、1400名の児童一人一人が心身共に健康な成長を願い、平凡なことを非凡に、不断の指導と実践

を続けることに心がけてきた。こうした中で、子ども達は、とても素直に明朗に育ってきていると思っている。

児童数に比して、校庭は30m×60m、体育館も2クラス同時使用しなければならぬ程狭隘なだけに、正規の体育授業にも並々ならぬ担任の苦勞が偲ばれる。だから武俊君は、全校児童の中の個人としての指導であつたに過ぎない。

それだけに、本人の素質・努力と、ご両親の養育の賜であると心から祝福し、敬意を表するものである。

幸なことに、健康教育については、伝統によって培われた学校の雰囲気は、数々の体育的対外行事には常勝の力をつけ、地道な実践が、引き継がれてきた。余りにもおこがましいのであるが、学校保健部門のあしあとを概述させてほしいと思う。

昭和15年学校医となられて以来昭和52年6月故人となられるまで、本校の学校保健、健康教育に情熱を燃やして指導して下さった小松文一先生を忘れることが出来ない。先生は長期間、当地方の医師会長の要職にあり、かつ当地区保健会創設以来の会長として、敏腕を振るわれた。こうした立派な校医のもとに、昭和16年、虚弱児の健康増進に着手以来、PTA・地域の協力のもと、健康教育の飛躍的な発展を見せた。

昭和27年 保健経営適切で県より表彰

昭和28・29年 学校保健優良学校として地区保健会より表彰

昭和29・30年 学校保健研究校として実績により、県より学校保健優良学校特選表彰

昭和31年 文部大臣表彰

昭和35年 県より保健優良学校表彰

昭和40年 よい歯の学校表彰、引き続き昭和45年よい歯の学校最優秀校、昭和50年には10年連続優良校として表彰

昭和44年 健康優良児童全国特選（角田君）

など数々の表彰の示す通り、日常の学校生活の中に、学校保健、健康教育が定着していたものと考えられる。

昭和43年以降、肥満児対策として、肥満児のための特別指導が開始され、現在も尚手をゆるめてはいない。

武俊君の日本一の栄誉を故人の小松校医の霊前に報告し、更に限りない発展のために、伝統の灯を消すことなく、前進一途あるのみと覚悟を新たにしている。

4. 光明 ——自信をもって——

今回の健康優良児に、男女とも、本県より特選児が

誕生、しかも男子日本一に本校の武俊君が推薦されたことは、何といてもよろこばしい限りである。

本校にとっては、二度目の快挙であり然も日本一という栄誉に輝いた。東北地方からも、特選男子の2名、女子の3名誕生ということは、何と素ばらしいことであ

り、心から祝福すると同時に、自信をもっていいという心境に立つことができた。

今後更に精進を重ね、学校教育の充実に努力したい。光明見えたりという感じを持つのである。



栄誉をたたえて

——健康優良児日本——

担任 後藤 貞 善

武俊君「日本一」おめでとう。

心も体も健康であることで日本一の栄誉をいただくことは、ほんとうにすばらしいことです。「日本一」の表彰の楯を手に学校にもどった時、全校1400人の友だち、そしてクラスの友だちは万雷の拍手で祝福と喜びをわかち合いました。毎日を共に生活をしているためかあまり身近かすぎて「日本一」ということが実感としてとらえることができませんでした。今になって、自分のクラスから「健康優良児日本一」の栄誉を得たということは、教師として、これ以上の幸せはありません。本人も最高の幸福感にひたっていると思います。

武俊君が全国の特選児に選ばれた時、体位はいままでの特選児と比べて、特に秀れたものではなかったようです。でもバランスのとれた身体、走力、跳力、投力など、どの領域にも欠点のない、秀れた運動能力を持っていました。また、日常の学校生活では、落ちついた言動、実に堂々とした発表態度など学校でも秀れたリーダーとなって、めざましい活躍ぶりでした。だから必ず、よい成績をおさめるであろうとひそかに期待はしていたものですが、「日本一に選ばれた。」という報せを受けた時は、半信半疑で何回もくり返し聞いたほどでした。

武俊君との出会いは、五年生を担任した時からです。学習にも、運動にも、遊びの中でも、伸び伸びと参加し、級友とのおしゃべりで時を忘れ、ふざけ合って無邪気に校庭を走り回っている姿も見られました。

一方、五年から郡陸上大会、郡水泳大会に参加し、

万能ぶりを発揮しました。六年になってまた一段とたくましく成長しました。郡陸上大会では、80メートルハードルに優勝し、400メートルのリレーでは、最終走者として力強い走り方で直線百メートルで先頭を抜き去って、優勝の原動力となり、興奮の渦にまきこんだこともあります。そんな時も、チームの責任者として、また学校の代表選手としての誇りを自覚し、冷静で驕ることなく、みんなの祝福を心から喜んでいました。練習の成果はもちろん、どんな条件でも、本番になると練習以上の力を発揮する底力と根性を見せられました。学習面では、正しい理解力、論理的思考力、記憶力などすばらしい能力を持ち、あらゆる課題を自主的に取り組み、がんばり通す意志の強い面を持っています。そして、えらぶったところがなく、素直で誰とでも協力して学習しているのです。

このたびの栄誉を得たことについては、本人の秀れた素質とふだんの努力はもちろんですが、その陰にある御両親の愛情と、未熟児として誕生した武俊君を細かい配慮あるお母さんの養育があったからだと思っています。また学校生活では、多くの先生方の御指導、それと共に励まし合い、協力し合ってきた多くの友だちがあったことを忘れてはならないと思います。

今後は、この栄誉が重荷となるようなことのないように、変りない養育を御両親に、よりよい御指導を多くの方々に望むと同時に、益々武俊君の本領が発揮されるように見守っていききたいと思うのです。



(鬼海君ご一家)

わが子が、こんなに成長して、朝日新聞本社の講堂で、社長さんから、子どもと共に賞状と楯を戴いた時の感激は一生忘れることはできない。雲の上にでものつたような、言葉では表すことの出来ないうれしさであった。

授賞式で、階段を上る時に転んで失敗でもしないか、又足が震えて、上ることが出来ないのではないかなど、心配でならなかった。リハーサルはしたものの、大きい講堂に上るのは初めてなので……。

それでも、子どもにだけは、きちんとしなさいと何度も言ったものだ。鹿児島の日本一になられた丸野さんも、きっと同じような気持ではなかったかと思う。

全員の表彰が終って、健康優良児代表して男子が武俊の答辞。武俊は、元来無口であり、話も余り上手ではないので、本番でどうかなあと読むまで心配でした。

途中で駄目にならないようにと祈る気持でした。然し、思った程ではなく、大きな声で読み上げる姿が、生まれた時の末熟児でも、こんなに大きく立派に成長してくれたと、初めて、自分にもどった気持でした。

日本一には、全然なれるとは思っていなかったし、他の優良児の皆さんは、武俊よりは体格も優れていたし、なぜ日本一に選ばれたのかが不思議な位でした。

親が小さいので、初めての子どもが、病院で末熟児だといわれた時には、がっかりしました。でも、妻には大切に育てるよう何度も言い聞かせたものだ。

2才から3才に育つにつれて、体も大きくなった。遊びに行つて困つたことと言えば、「これは何だ」「あれは何だ」と聞かれ、納得のいくまで聞きかえされた。

武俊は、小さい時から本だけはよく読んだ。読めない字があると、何と読むのかと、仕事も出来ない程聞かれたことを思い起こす。

3才の時であったか、休日に遊びに行った帰りに、腹が減ったので食堂でラーメンを食べた時には、武俊

健康優良児授賞式 に参加して

父 鬼 海 秀 夫

は一杯でたらず二杯も食べたのに驚かされた。埼玉で、食堂を経営していた関係で、食べ物だけは、十分とまではいかなくとも、珍しい物があれば、買って食べさせて、寝る時間だけは、必ず守ってきた。夜は八時に寝るようにし、朝は、六時半頃迄に十分睡眠をとらせてきた。その武俊が今、晴の日本一を授賞し、親としての感激は、子ども以上のものがある。

六年生も終り、中学、高校へと進学することになるが、普通の成績で進んでいってくればよいと思っている。

親として、子どもに期待するものは、何もない。只途中で、どんな風に変化するかは、本人次第だと思っている。

現在、子どもに言い聞かせていることは、悪い事と、うそだけは絶対ないように、きびしくいつている。

家族が楽しく、仲よく、話し合つて暮していくことが、子どもの成長にプラスにもなるものと信じている。そして、武俊の成長を見守っていきたいと考えている。

いのち

光彩を放ちて重きみのりかな

蒼空にこぶしの花芽競い立ち

落ちこぼれいざ立て春の慈雨浴びて

(しげる)

日本一になって



鬼海武俊

はくは、健康優良児童、日本一の表彰を受けて、とても感激しました。

生まれた時は、体が小さく、病気がちでした。そんなはくが、健康優良児童、日本一の表彰を受けるなんて、今になって考えてみれば、その小さかった時は、健康の「け」の字もあてはまらなかったと思っています。

それから、表彰式までの4日間、共に寝起きしてきた全国各地の友達のことも思い浮かんできました。こまったことや、わからないことなどは、いっしょに生活してくださったカップバ(寺田幹根)さんや、キリン(金塚太美子)さんたちに聞いてきました。このおかげでみんなのことがよくわかってきました。そんな友達のことが今でも、忘れられません。まして、この後は、今よりも、一層に思い浮かべることができるでしょう。それに、その健康優良児童の友達を代表して表彰されたのだから、一生忘れることはできません。

それから、もうひとつ忘れてはならない人達がたくさんいます。父、母、学校の先生、身近な友達……、などと、数えきれないほどいます。そして、このような人達は、はくの生い立ちに関係があります。学校の先生は、はくが、おとなになって社会に出て、りっぱに生活できるように、いろいろ学ばせてくださいました。友達とは、自分の意見を言ったり、相手の意見を聞いたり、良いところはのびし、悪いところはやめさせて、自分と友達との関係を深めてきました。それに、父母。はくが未熟児に生まれてきたのに、一生懸命になって育ててくださいました。その温かい愛情の中ですくすくと育っていききました。そして今では、こんなにりっぱになって、親孝行ができました。でも、この親孝行をするまでには、何もなかったわけではありません。くるしいこと、つらいことが限らないほど

ありました。

たとえば、夏のことです。

郡の水泳記録会のために強化特訓をやってきました。

はくは、水泳が好きでした。でも、その強化特訓は水泳をいやになるほどつらいでした。ザァー、ザァーと地面をたたきつけるような雨の日も休まさせてくれません。もちろん、フォームが悪くなるからと言って、特訓でしか泳がせてくれませんでした。だからといってやめてはいられません。ここでやめたら、何事にもだめになってしまいます。それこそ、りっぱな人間にはなれません。ですから、いくらつらくてもがまんし続けてきました。そのかいがあって五年生の時は、良い成績を出すことができました。でも、いつでもベストコンディションではありません。六年生の時は、小学生時代はこれで終わりだと思って、がんばってききましたが、かぜのために出られませんでした。これで、いつでも体の調子を整えておくことのむずかしさ、その中でも本番には、最良のコンディションにしておくことのむずかしさを、教えられました。

そのほかにも、やりたくない。やめてしまいたい。というような、くるしいこと、つらいことが、たくさんあります。そのような時は、友達に相談したり、いろいろな人の知恵を借りたりして、解決してきました。

でも、知恵を貸してくれる人がいなかったり、どうしても、自分自身で考えなければならぬ場合は、しかたありません。ひとりで考えます。けれど、なかなか解決できないといやになってきます。そんな時は、どうしても人にたよりたくなります。でも、そこで人にたよるようではいけません。前にも言ったようにりっぱな人間にはなれません。これははくだけでなく、だれにでもあてはまるでしょう。ですから、はくは、このことを忘れることなく覚えておきたいのです。それから、友達との付き合い、人間としての関係を今まで以上に深めて、身近な人との付き合いだけでなく、健康優良児童を初め、全国各地の人達と付き合って、少しずつ社会に慣れていきたいと思っています。

協力心と独立心、人と人との付き合い、それに、何事にもたえぬ心、このことが、これからのはくのためになると思います。おとなになって、社会に出てからも、このことがきつと役にたつだろうと思っています。



「日本一健康優良児」誕生を喜ぶ

鹿児島県姶良郡牧園町立牧園小学校

校長 豊釜 豊志

1. 最高の感激

「校長先生電話です」に何気なく受話器を取ったとたん「お陰様多恵子が健康優良児日本一に選ばれました」とうわずいた東京からのお母さんの電話に、職員室にいた先生方と思わず万才を叫んでしまったのは、11月1日の午後5時35分でした。それから朝日新聞社鹿児島支局からの正式な健康優良児日本一の通知とともに、県保健体育課からの祝電を受けて、退出ぎわの先生方や、駆けつけて来たPTAの方々とともに、本校の職員室は今までにない感激のつばと化した。

明けて2日は、PTAの総務部会、スポーツ少年団員の保護者役員会が開催され、祝賀の日程が決議された。即ち、4日鹿児島空港へバスや自家用車を連ねての大歓迎陣や、体育館でのスポーツ少年団員約100名による歓迎会、それに多恵子さんの父の経営する食堂山茶苑での祝賀会は、数発による花火とともに夜空にこだまし、霊峰高千穂の山々は今までにない祝賀一色に包まれた。

明けて5日は、「おめでとう日本一健康優良児、丸野多恵子さん」の横断幕を校門前や道路の要所要所に掲揚し、7日は、県の教育事務所や県教育長、県議会議長さんの所にあいさつまわり、8日はMBCTVで生放送、19日は名古屋放送とMBCTV共催で「ゆかいに生きよう日本一健康優良児丸野多恵子さん」で放映、更に20日は多恵子さんの日本一を記念しての牧園小学校スポーツ少年団第一回運動会が華々しく举行され、それはそれは、多忙な祝福に明け暮れた毎日でした。

思えば、鹿児島県の学童の体位体力は毎年全国の下位にあるにもかかわらず、健康優良児日本一が鹿児島県に誕生したのは、今までにない快事であれば、全校児童数279名の山間へき地の小規模校の校区民の驚

き、喜び、感激はその当人ならではの感を深くした次第である。

2. 自然環境

牧園町は、霧島火山脈の裾野台地に位し、面積約130km²の広範な高原で、いたる所に温泉が湧出し、雄大な自然の景観と共に観光資源となっている。

牧園地区は、牧園町の南西に位し、面積およそ23km²の山地が多く田畑は割合少ない。空気がきれいで、公害に汚染されることなく、美しい自然の中にある。

3. 文化環境

牧園校区は、町の中心で古い歴史と伝統をもち、人口も町の約三分の一をしめ、町の行政、経済、文化、交通の中心で、役場をはじめ農協、銀行、外各種機関中学校、高等学校もあり、校区民の教育に対する関心も極めて深い。保護者の職業構成も、会社員21.5%公務員18.3%、農業12.6%、建設業17.3%、商業5.8%自由業9.9%、その他8.3%と有識者が多い。

4. 本校の教育方針

豊かな人間性と創造力に富み、たくましい実践力をもつ心身ともに健康な児童の育成をめざす。

(1). こんな子ども……………主体的に学ぶ子ども

①. 元気で明るい子ども（心身）

心身ともに健康で明るく、いつもはつらつとして機敏に動くのびのびとした子ども。

②. 考える子ども（知）

じっくりと学習にとりくみ、よく考えて創意くふうをし、きちんと物事をやる自主的な子ども

③. 仲のよい子ども（情）

思いやりがあり、仲よく助け合い、人に迷惑を
 けない、心の美しい上品な子ども

④. がんばる子ども（意）

自分から進んで学習に取り組み、よろこんで働き
 最後までがんばりぬく意志の強い子ども。

(2). こんな学校

①. 明るい学校

豊かな教育活動が展開され、いきいきした躍動を
 覚え、新鮮さをもって前進する明るい学校

②. 楽しい学校

温かさ、なごやかさがみなぎり、うるおいがあり、
 善意と希望と喜びに満ちた楽しい学校

③. 美しい学校

すべてのものが教育的に生かされ、整然とした気
 品のある美しい学校

④. たしかな学校

子どもの幸福が優先し、ひとりひとりの子どもが
 大事にされ、手落ちのない小学校

⑤. 信頼される学校

おたがいが協力的で信頼で結びついた学校、そし
 て家庭社会と血のかよい合う信頼度の高い学校

5. 具体的な健康教育

本校の児童は他校に比較して体位、体力ともに
 良好であるとは言えない。その原因の一つに校庭が
 2,330㎡という今時珍しい狭小な運動場であるとい
 うことである。それがため本校は特に走に弱く、筋力
 に欠ける。

(1). 本校の運動能力と体力診断テストの実態

運動能力における県平均との比較

(S. 51. 11. 15現在)

種目	5 年		6 年	
	男 子		女 子	
	県平均	本 校	県平均	本 校
50m走	9.2	9.1	9.5	9.8
走り幅とび	303.5	338.0	277.1	290.9
ソフトボ ール投げ	29.5	37.4	17.1	19.1
斜 懸 垂	36.2	24.2	30.2	16.1
ジグザグド リブル	20.7	18.3	22.0	21.9
連続さか 上がり	4.5	4.0	4.3	3.6

県平均より下まわる

体力診断テストにおける県平均との比較

種目	5 年				6 年			
	男 子		女 子		男 子		女 子	
	県平均	本 校	県平均	本 校	県平均	本 校	県平均	本 校
反復横とび	36.2	37.0	35.4	34.1	39.6	37.9	38.4	39.4
垂直とび	32.7	33.4	30.8	29.2	36.3	32.6	33.7	32.9
背 筋 力	56.3	60.3	45.8	46.8	66.3	64.4	54.8	60.2
握 力	17.7	17.4	16.2	15.3	20.3	18.4	19.3	19.6
踏台昇降 (指数)	68.9	66.2	65.1	66.0	69.2	66.8	64.8	74.3
伏臥上体 そらし	44.3	49.0	45.8	47.5	46.5	45.7	49.1	51.7
立位体前屈	7.8	6.0	9.9	7.5	8.0	5.7	10.8	10.3

県平均より下まわる

(2). 駆け足となわ飛び

毎朝天気の良い日は、全児童による駆け足となわ飛
 びを交互に実行して、体力、忍耐力の向上と、元気で
 明るい子どもの養成の一環としてやっている。

(3). 給食後の歯磨き運動

本校の実体として、虫歯が実に多い。それがため、
 全児童、給食後は虫歯予防のため、歯磨き運動を年間
 を通じて実行している。

(4). スポーツ少年団の育成

本校では、スイミングクラブ、剣道、バレーボール
 の三つのスポーツ少年団が結成されている。このスポ
 ーツ少年団は、年間を通じてほとんど毎日練習をして
 いる。スイミングクラブは冬期であっても、近くに温
 泉プールの施設があるので、練習に事欠かない。指導
 者は、剣道以外は、本校の職員があたっているが、今
 時珍しい献身的な指導熱心さで、父兄からの信頼を
 一身に集めている。また父兄としても、5時以降各職
 場から解放された有志の人達に実によく面倒を見てい
 ただいている。それがため成績もよく水泳の記録は郡
 でも抜群、バレーボール（女子）は県の大会に出場し
 て一、二位の成績を収めている。剣道は、指導者は部
 外の人に当たってもらっているが、大会の成績はあんまり芳しくないが、それでも心の鍛練を重点にした指導
 は、児童の礼儀作法面に大きく貢献している。日本一
 健康優良児の丸野多恵子さんは現在バレーボール部員
 として活躍しているが、4年生の時は剣道部、5年生
 では、水泳、バレーボール部員として活躍した。

(5). その他の活動

本校は学級・学年PTAの活動が盛んで、よく日曜
 日を利用して、学級や学年による霧島登山、夏のキャン
 プ（親子）活動が活発である。また地域活動として

は、ソフトボールの大会、運動会、綱引き大会が、各地域毎の子ども大会の行事として行なわれている。これらの活動が、心身ともに健康な児童の育成に大きく貢献しているのではなかろうかと思われる。

6. 健康優良児日本一の丸野多恵子さん

10月のある日、私は校長室で仕事をしていると、「入っていいですか」と丸野多恵子さんがやって来た。「校長先生に相談があって参りました」「何ですか」と問い返すと、「はい実は、校長先生すみませんけど、私の図画のモデルになってください」と言う。「何でもまた僕を選んだの」と言う。「はい校長先生は頭が薄くて画き易いから……………」

普通の児童ならば、校長室でさえあまり来たがらないのに、堂々として来て、私の頭の毛の薄い所まではっきりと言えるおおらかなそして物おじしない彼女の態度には、にくめない可愛さがあり、またいつでもどこでも、にこにこ必要以上にあいさつが出来ることと、下級生に対しては人一倍面倒の見える明朗活発な子で、本校の「元気で明るい子ども」という教育方針を地で行なっているような典型的な子である。もちろん体力、運動能力については、何をやらせても本校いや郡、県を通じて抜群の成績であることはいうまでもない。

以上のような多恵子さんが育ったのは、もちろん家庭における父母を中心とした教育環境づくりはもとより、多恵子さんを担任していただいた歴代の先生方の並々ならぬ教育の結果がこのようすばらしい榮譽をもたらしたものだと思い、その関係者の方々に厚く感謝の意を表する次第である。

特に現在担任していただいている愛甲先生には、雨の日も風の日雪の日も毎日バレーボールの指導を夜おそくまでやっていただいているその愛情ある指導には、全く父兄とともに頭の下る思いでいっぱいであります。ほんとうに、御苦労様でした。

7. 終りに

丸野多恵子さん、日本一健康優良児の榮譽に酔うことなく、今後はますます心身ともに自重し、持ち前の明朗活発さをいやが上にも発揮し、そして日本一にふさわしい立派な社会人に成長してください。そして10年後は再びどこかでお会いし大きく成長した英姿の見える日を楽しみにしています。



「日本一おめでとう」
多恵子さん

担任 愛 甲 勝 則

「多恵子さん 健康優良児日本一おめでとう」

各県から選ばれた粒よりの代表10名の中から「日本一」の榮譽を獲得するなんて…………「まさか」と思っていました。今まで、牧園小から県一位が出たこともありませんし、ましてや「日本一」が生まれようとは予想もしていませんでした。ただもう、全国特選児童に入賞してくれただけでもと喜んでいたのでした。

それが、「日本一」の榮譽、本当におめでとう。

日本一の知らせを聞いたのが、11月1日(火)ちょうど、放課後のバレー練習の最中でした。「やった」「ついにやった」と思わずこぶしをじっと握り、父兄の人とも握手をし喜びをじーとかみしめていました。自分が推薦した児童が「日本一」になり、これ以上の教師のしあわせはありません。バレー練習を済ませ、すぐ多恵子さんの家へかけつけ、日本一の榮譽をたたえました。多恵子さんと直接電話はできませんでしたが、電話から聞こえてくるお母さんの喜びにふるえた声、今でも耳の中に残っています。あくる日、全校朝会で「丸野さん 日本一」を全校の友達、クラスの友達に知らせました。一瞬どよめきともしれない驚きと喜びの音が湧きました。

県一位に選ばれてから、陸上記録会のための練習はしたものの特別に日本一へ向けて訓練はしませんでした。

た。ただ、県代表として恥ずかしくないように精一杯やって来てくれればと思っていました。それがこんな立派なすばらしいことになろうとは……これにあやかってバレー部員もがんばろうと11月3日試合に出場しました。多恵子さんのいないバレー試合、何か欠けていたのでしょう。惜敗でした。

そのまま、もう早く帰校し、多恵子さんを迎えるための準備に大わらわ。スポーツ少年団をはじめ、PTAの方々も多恵子さんを心温かく、迎えてやろうと一生懸命でした。

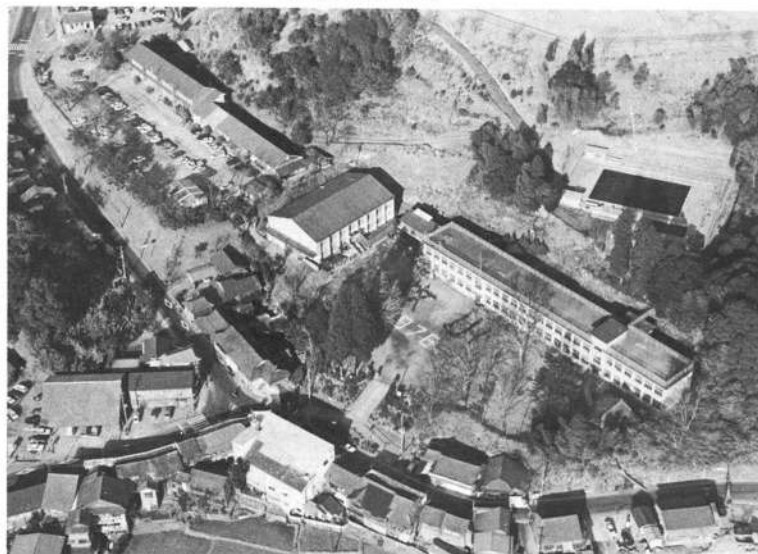
それに、帰ってくる日、6年生の友達が喜びを、分かちあおうとわざわざ空港まで出迎えに行きました。また、クラスの友達も登校した日、黒板に「日本一、おめでとうタコベー」と書いていました。このようにあなたの日本一を心から喜んで、心から祝ってくれたのです。

健康優良児となるからには、優秀な知能と心と体を兼ね備えていなければなりません。

多恵子さんは、学校でもいつも朗らかで、だれに対しても気持ちのよいあいさつをします。

また、運動面においても抜群でしたから、機会があれば、健康優良児に推薦したいなあと思っていました。6年生になって、担任してみますと、確かに、私が予想した通り、学習にも、運動にも、遊びにもいつも積極的のびのびと参加し、体格だけでなく、行動においても、他の児童とちがって何か「しん」のあるものが感じとれました。友達とよくしゃべり、大声で笑い

牧園小学校全景



ふざけ合ったりして茶目っ気たっぷりの様子をよく見るものです。

一方、一年生の幼い子ども達を校庭に連れて来て整列させたり、紙芝居を読んで聞かせたりして心の優しい姉さんとして慕われています。



(中央に立っている多恵子さん)

今、バレー少年団に入部して、放課後、遅くまで練習に励んでいます。練習のとき、ボールへ向かってくる目のかがやきとファイト。ボールが打ちこまれても、体ごとぶっつかってレシーブする姿、やろうと思ったことは、とことん立ち向かっていく意気、とびぬけた技術というほどではないのですが、研究熱心で日々上達しています。友達が、失敗したら声をかけてなぐさめてくれる心の優しい多恵子さんです。心と体が、一体となって努力していく姿をみるにつけ、うれしく思うと同時に、やはり、「日本一」にふさわしい児童だったと痛感しています。こういう多恵子さんに育ったのは、多恵子さんのすぐれた素質と日々の努力は、もちろんのこと、ご両親の温かい愛情と今まで担任して下さった先生方のご指導、それに、まわりの人々の協力励まし合いがあったからだと思います。

最後に、知能と学力、体力ともに立派な宝物を戴いた多恵子さん、ご両親に感謝するとともに「日本一」の誇りと自覚をもち、今からも、ますます、心と体を鍛え、伸び伸びと健やかに育ってもらいたいものです。



(お母さん、妹さん、多恵子さん)

娘の健康日本一に思う

母 丸 野 サ エ 子

夏休みに入る数日前に、校長先生から、健康優良児の審査会に多恵子を推せんしておいたからと知らせがあり、恥ずかしい事ですが、そんな催しがある事も知らず、体が大きいのだから当り前くらいに思って、県の審査に臨みました。

県下で8名中に選ばれ、体力から身体、知能テストと、立派な先生方から審査され、こんな機会に恵まれた娘は、何と幸運な子供でしょうと、ありがたく思っておりましたのに、はからずも県一に選ばれ、そして、全国の特選児入賞と、思いもかけぬ出来事に、それからは、健康優良児一色に、振り回される毎日になってしまいました。

校長先生始め、担任の愛甲先生は勿論のこと、中でも、多恵子の所属するスポーツ少年団の人達から、大変な祝福をいただいて、願わくは、日本一にと、大それた期待を一身に受けて、10月30日、東京へ旅立ちました。

娘は初めての東京に大きな期待をいできて、めったにない母子二人の旅が、何にもかえがたい嬉しいひとときだったようです。

宿舎に着いた時は、少し遅れたせいか、もうほとんどの特選児童の方々は着いておられました。非常に緊張した中で受付がすみ、打合せ会の後、親子別々の部屋に移され、私共母親は、12名一しょの部屋で、ごこ寝の形で顔を合わせる事になりました。

自己紹介等して、すぐに打ちとけ、北は秋田から、南は沖縄まで、全国のお母さん方が、言葉は違えど本当に同じ気持ちになって、故郷の紹介、郷土料理、自まん話など夜寝るのも惜しいかのように、おそくまで語り明かしました。

どのお母さんも、10名の特選の中に入ったそれだけで、満足はしておられるものの、やはり日本一が決定

するまでの間は、果してどの子に、もしや我が子にと、それはそれは皆さん、同じお気持ちだったと思います。すっかり親しくなってきたからの日本一決定は、何か私だけ、良い気分になってしまったようで、皆さんの中で、手放しで、喜べないような気持ちでした。

眠れぬままに、朝早く、宿舎の屋上に上り東京の朝日をおがみました。

ありとあらゆる人間の知恵の結集である東京の町をながめながら、娘の日本一が、何と得がたく、尊いものであるか、子供を持つ親として、こんなに有がたい賞が又とあるものでしょうか。「深き^{のり}み法にあいまつる、身の幸なになたうべき」真宗宗歌を口ずさみ、鹿児島で私共の帰りを待っている母や、主人、そして他の三人の子供達に、心から、ありがとうと、日本一幸せな母親にさせていただけた幸せを、しみじみとかみしめました。子供のおかげで、天皇、皇后両陛下に、拝謁の光栄に浴し、人生最高の喜びの数日でした。

東京での行事を終えて、空港に降り立った時、スポーツ少年団を始め、学校の先生方、PTAの方々、その他大勢の方々の出迎えに娘も私もびっくりしてしまいました。こんなに皆さんに喜んでいただけるとは、思ってもおりませんでした。

特に牧園を遠く離れた方々は、牧園の名が全国に広まって鼻が高いと、お祝いの電話や、お手紙に、嬉しい悲鳴を上げるばかりでした。

テレビ出演や手紙のお礼状書きなど、娘も夜を徹して書いて、さすがのタフな子も、一日学校を休んで、終日寝ていた日もあったほどです。

やっと平静に帰り、娘の毎日を静かながめておりますと、前にも増して、自覚を持って生活しているようです。

4人兄妹の二番目に生まれ、他の3名の兄妹と年子で育ったわけですが、ひとりひとり性格も体格も違い多恵子は特に、小さい時から自立心の強い子で、何ひとつ私を手こずらせる事もなく、妹達のめんどうを見、いつも、姉さんぶっていたようです。

ひとつ違いの兄といつも張り合って勉強をし、負けずぎらいのその性格は、いつも私をまき込む兄妹げんかになります。

しかし、何をするにも4人一しょ、夕食後は、いつも、ピアノ発表会のまね事や、かわり、がわり独唱と、子供達は、我先にと声を張り上げて歌います。

仕事の関係上、客の出入も多く、人にものおじしない性格は小さい頃から培われ、長男などは、夏祭り等人前で歌うのを、大の楽しみにしているようです。

中でも、がんばり屋の多恵子は、歌うよりピアノの方に熱を入れ、どんどん進んで、学校の音楽発表会の時等、いつも大活やくします。四年から五年にかけて、見る見るうちに大きくなり、あまり大きくなりすぎると、女の子は、かわい気なくなるからと心配したほどです。運動会でのカケッコもいつも一番、何をさせても、人に負けない性格に、私は安心して、授業参観の時も、多恵子より他の3名の子供の方に気をとられ、いつの間にか、私の手伝いが出来るように、成長してしまったようです。

主人は、躰に非常にきびしく、子供がいたずらでもしようものなら、客の前でも、平気でゲンコツが飛ぶことがたびたびです。

特に長男に対しての躰は非常にきびしく、家の中でごろごろでもしようものなら、目から火が出るほど、叱りとばされます。

夏休みに入って間もなく、中学二年の長男に「男の子なら精神の鍛練のため、冒険をせよ」と言って、長崎まで、自転車旅行をさせました。交通量の多い国道三号線を、どうして行くだらうかと、私は心配で、はらはらの連続でしたが、真黒く日やけて、2週間ぶりに帰って来た長男をみて、ほんと胸をなぜおろしました。

こうしていつも、長男の良し悪しをつぶさに見ていますので、多恵子は自然、それが身について、叱られる事もないようです。

恵まれた自然の中で、スポーツ少年団の人達と一しょに、今日も又、子供達は喜々として運動に励んでいるようですが、全国に又健康優良児という、すばらしい友達を持って、本当に、こんなに恵まれた子供達は他にいないでしょう。

今度の日本一の受賞が、この子に、どのような影響を与えていくのだらうかと、一まつの不安はありますが、この受賞が、これから先、困難に出合った時に、心の励みになってくれるよう願って、又今までと変らない平凡な毎日に帰っていきたいと思います。

「子は親の後姿を見て育つ」ということわざを、肝に銘じて、身も心も引きしめて、毎日の生活を営んでいきたいと思います。

日本一健康優良児 に選ばれて

丸 野 多 恵 子

「女子日本一健康優良児に、鹿児島県 牧園小学校、丸野多恵子さん。」

と、呼ばれた時

「えっ。私が?。」

と、思いました。信じられませんでした。

しかし、係の人は確かに

「丸野多恵子さん。」

と、おっしゃったのです。

「ほんとうかしら。」

私は、後ろの母をふり返りました。

私が、この健康優良児審査があるという事を知ったのは、一学期の中ごろでした。

担任の先生から書類を出されたと聞いた時「私のようなのが出されてもいいのかな。」と、思ったくらいでまったく無関心でした。

しかしその後、保健の先生や、校長先生が「書類が、通るといいね。」

と、何度もおっしゃるので、
「みんな心配してくれるんだから、がんばらなきゃ。」
と、思いました。

夏休みに、書類審査に合格して、県の直接審査対象に選ばれました。との、通知が来ました。

そして8月31日、県審査に臨みました。

この時は、審査員の人の前で体そうをしたり、体力テストも知能テストもだいたいよくできたので、それだけでもうれいでした。

その結果、県健康優良児1位になりました。

まだあと、特選健康優良児、日本一と、ありましたが、特選健康優良児、日本一というのは、私には、とうてい手の届かないところに、あるようだったので、そこで健康優良児審査のことは、忘れることにしました。

ところが、10月の中旬ごろ朝会が終わっても、なかなか先生がこないのです、

「先生おそいなあ。」

と、みんなで、言い合っている時、先生が入っていらして、きゅうに

「丸野さん。おめでとう。」

と、おっしゃったので、私もみんなも何のことかわからず、先生に聞くと、特選健康優良児に選ばれたということでした。

私は、思いもかけぬ幸運に、ただびっくりするだけでした。

上京する時は、スポーツ少年団の人たちが壮行会を開いてくださいました。

それに、朝早くなのに、上京の朝、見送りに来てくれた人たち、ほんとうに感謝の気持ちで、いっぱいでした。

東京の宿舎についた時は、少しおくれたせいか、ほかの人は、だいたい来ていました。

その時、特選健康優良児童の人たちを見て「私の中で、無事やっていけるだろうか。」と、いう不安が起きました。

しかし、その不安もみんなになれていく間に、うすれ、最後には、なくなりました。

10月31日、知能テストと体力テストがありました。

知能テストは、以前先生からいただいた、テキストを見ていたので、わりとよくできました。

とくに作文は、題が『私の友達』という題だったので、書きやすく、たくさんの友達のことを思いきり書きました。

体力テストでは、はば飛びが3 m 85cm、けんすいが56秒でした。

ところが、ソフトボール投げが33mと悪く、じゅうなん体そうで、私は体がかたいので、少し失敗しました。

11月3日、最後の面接がありました。

面接の時には、なるべく相手の目を見て、相手にわかるように答えるよう注意しました。

それに、あがらないように、お守りをにぎりしめていました。

質問の中には、こまった問題もありましたが、無事にすんでほっとしました。

日本一を決める話し合いがすすめられている時、私達はひかえ室で、まっていた。最初はおとなしくまっていたが、あとからは、だんだん心配になって来て、落ち着かなくなったので、心を静めるために、話をしたり、窓から外をながめたりしました。

結果が出たという事で、私達は並んで、結果の発表がある部屋まで行きました。

そこで、日本一が発表され、私の日本一が決まりました。

日本にはたくさんの、六年生がいます。その中で、私が日本一に選ばれたのです。私は日本一になるために、健康優良児になるために努力して来たわけではありません。ただごくふつうに育って来ました。それだけに、よけい、うれいでした。

宿舎に帰ってから特選健康優良児の人たちが、祝賀会を開いてくれました。みんな

「おめでとう。タコラ。」

と、言ってくれました。みんなその『おめでとう』と言う言葉をもらうためにがんばって来たのに、私だけいい思いをしてみんなにすまないと思いました。今まで、いろんなところで、『おめでとう』と、言う言葉をもらったけど、私にはきょうほどこの『おめでとう』という、みんなの言葉が心に残った事はありませんでした。

もう一つ心に残った言葉があります。それは、母が「今、日本一になったけど、苦しい事がこれからたくさんあるのよ。それをのりこえた時が、ほんとうの日本一よ。」

と言った言葉です。

私は、この二つの言葉、気持ちを大切に、これからも、勉強、スポーツにがんばっていきたいと思います。



全日本特選健康優良児童になって

茨城県結城市立結城小学校

6年 亀岡真美

わたしは、昭和52年度、全日本特選健康優良児童になりました。

それまでの経過は、まず、市の大会までに運動能力の方の記録を良くする、ということと、絶対に虫歯をつくってはいけない、ということから始まりました。

6月9日、市内の城南小学校で、市のしん査会がありました。これは、午前中には、身体測定と運動能力テスト、午後は、内科検査と面接、というふうに分けてしん査されました。その結果、男女各1名ずつの特選のなかにわたしが選ばれたのでした。

県のしん査会は、まず、書類選考で県内で男女各5名ずつを選び出し、その選ばれた人のなかに入った人が9月6日に水戸保健所に集まり、そのしん査を受ける、という内容でした。わたしは、その計10名の中に入り、しん査を受けることになりました。しん査は、これも、午前中は、知能テスト、身体測定、運動能力テスト、午後は、内科検査、面接、というふうに分けて行われました。その結果は、県の学校保健会の委員長さんから発表されました。わたしは、みごとに、男女各1名ずつの特選になりました。

全日本の特選を決めるのもやはり、書類選考です。わたしの担任の先生は、

「結果が来るのがおそいね。落ちたのかな。」と、心配されていましたが、それから何日かたって、全国特選に入った、との知らせが届きました。

その中央しん査会は、10月30日から11月3日にかけて行なわれましたが、わたしは、日本一にはならず、特選のままで終わってしまいました。

全日本特選健康優良児童になるまでに、やってきたことは、毎朝、毎晩、歯をみがき、虫歯を絶対につくらないというふうにながめてきたこと、走り巾とび、

けんすい、50メートル走、ボールスローなどの記録を良くしようと心がけ、毎日、少しずつ練習してきたこと、良い結果を出そうなどと考えずに、力いっぱい、というよりか、自分の力を出しつくして、その各種目にいともうと心がけ、実際に、それを実行するようにして、終わってから、悔いのないようにするようにしよう、ということ、の三つです。

まず、毎朝、毎晩、歯をみがき、虫歯を絶対につくらないということは、わたしが、生まれてから、今までに、虫歯ができたことがない、ということから生まれた目標です。その歯のみがき方というのは、ごくふうのみがき方の、上の歯は上から下へ、下の歯は下から上へです。けれども、それも、ていねいにやらないと、効果がないので、ていねいに、時間をかけて、また、歯みがき粉もたくさん使ってやる、というみがき方をしました。わたしは、虫歯になったことがないのでその痛みは分からないのですが、聞くところによると、大変、痛いものなのだそうで、わたしは、そんなものは味わいたくないと、今でも、前にあげたみがき方で、歯をみがいています。

二つめの運動能力の記録を良くしよう、ということは、そんなに、結果というか、記録は悪くないのですが、それぞれ、代表者達が集まってくるしん査会なので、その中には、運動能力がずばぬけて良い記録だ、という人もいるだろう、と思ったことから生まれた目標でした。それで、わたしは、記録を少しでも良くしたい、と考えて、父といっしょに学校の校庭では、軽く、トラック2周、そして準備体操、その次に、50メートル走、10回、ボールスロー、15回、走り巾とび、10回、けんすい、5回などと回数を決めて練習し、家の

近くの公園では、朝練習をしました。まず、公園を軽く2周して、50メートル走、5回、ボールスロー、10回、けんすい3回と同じように回数を決めてやりましたが、公園には、広い砂場がないので、走り巾とびだけは、できませんでした。こういうふうにして、運動の方は練習してきました。

三つめの目標のうち、良い結果を出そうなどと考えずに、自分の力を出しつくして、各種目にいともうと心がける、ということは、

「結果などいいから、自分の力を出しつくして、がんばってこい。」

と、県のしん査の前に、父が言ったことを、そのまま、目標にしたものです。わたしは、このことは、じゅうぶんに心がけてきました。ですから、一応、この一つの目標は守れたわけです。

実際に、それを実行するという事は、じゅうぶんに、心がけたので、だいじょうぶだと思っていたのですが、実際は、自分の記録を気にしすぎて、自分の力を出しつくす、ということはあまりできませんでした。ですから、この、実行しなくてはいけない、ということになってしまいました。

終わってから、悔いのないようにする、ということとは、結果を気にせず、力を出しつくす、ということが実行できなかったのですから、当然、中央しん査会では、けんすい、ボールスロー、走り巾とびのうちの、けんすいとボールスローは、自分の最高記録よりも、悪くなってしまったのでした。

結局、小さな三つの目標のうちの二つは、守れなかったわけです。

けれども、目標三つ全部を考えてみたら前の二つは守れて、最後の目標は守れなかったが、だいたいは守れた、ということになり、一応、ほっとしました。

全日本特選健康優良児童というと、男女各10名ずつですから、全国で上位、10人の中に入ったことになります。ですから、今後の活やくは、当然、期待されることになります。もちろん、責任もじゅうぶんに重いわけです。このように期待されても、良い人間になっていなくて、何にもなりません。かといって何にもしないで、良い人間になることはできないと思います。では、これから、わたしはどんな態度で生活していって良いのでしょうか。

わたしが、これから、生活していくのに、また、良い人間になるために、どのようなことをすれば良いのか、というと、たぶん、それは、いつも、健康を保つ

ているような生活をする、ということと、学習するときと、遊ぶときは区別をつけてやる、ということだと思います。

まず、健康を保つような生活を、ということは、二つに分けて考えられます。

一つは、病気などにならないようにすることで、その中には、虫歯予防、うがいをする、手を洗うことなどがあげられてきます。

わたしがひくかぜ、といえ、いつも、鼻にくるタイプのかぜが多いのですが、それでも、かぜなどひいていたら、健康は保てません。もちろん、虫歯をはじめ、その他の場合も同じです。人間は、病気などしていたら、生きる元気までなくなってしまう。ですから、わたしは、病気の予防が大切だ、と考えました。

もう一つは、運動をする、ということです。

運動といっても、たいへん、種類があります。そこで、どんな運動をしたら良いか、と考えてみました。

運動は、からだをきたえます。そこで、からだのどこを一番きたえれば体力がつくのかと考えてみたところ、からだ全体をじょうぶにして体力をつける、という考えがうかんできました。ですから、からだ全体をきたえるような運動をやれば良いわけです。これからは、病気を防ぎ、体をきたえるための運動をやりたいと思っています。

もう一つの、学習と遊びとの区別をつけるということは、遊びながらの学習でも覚えやすいのですが、これからは、勉強が、だんだん、難しくなっていくので、学習するときははてっ的に、やらなくてはだめだ、という考えから生まれたのです。

この二つの大きな目標は、守れるか、守れないかわかりませんが、良い人間になるために、できる限り、守りぬこうと考えています。

わたしは、このたび、全日本健康優良児童に選ばれて、多くの方々から、お祝いやら、げきれいをしていただき、本当にうれしく思いました。最高に幸せです。

でも、わたしの身のまわりには、あまり、健康にめぐまれず、病気で八十日も休んでいる人や、近眼やぜんそくで苦しんだり、足の不自由な友達がいいます。このような人達を考えると、とても気の毒に思います。

わたしは、このような人達のために、自分の健康を生かして少しでもお役に立ちたいと思っています。



アメリカの ダリー・シティー・スクール を参観して

千葉県千葉市立桜木小学校

校長 大塚 要

去年の夏、アメリカのワシントンで開催された世界教育会議に出席するため、7月26日羽田空港を出発し、約1か月間、カナダ、アメリカ、ヨーロッパ等6か国を回ってきました。その時のワシントン郊外の小学校を参観した様子です。



ダリースクールの窓のない
赤いレンガの学校

(ワシントン市郊外)

静かな緑の芝生に囲まれた丘の上の赤煉瓦造りの窓のない小学校です。玄関に入り、講堂兼体育館兼食堂の広々とした所に青白模様のワンピースを着た40才前後の中肉中背の美人の女校長さんが出迎えて下さって、コーヒーとケーキをいただきながら学校の説明に耳を傾けました。

廊下を真中にして左右3教室ずつ6教室、それに校長室、保健室等です。事務室と視聴覚室は玄関のすぐ右側で、その後方が講堂になっていました。

私達45名の各国の先生方はそれぞれに別れて各教室を参観しました。

私は3年生の音楽の授業をみました。受持の女の先生がピアノをひきながら子ども達と2曲ほど歌っていました。すると突然私達と一緒に参観していた黒人の

男の先生が前へつかつかと出て行って、担任の先生と何やら話し合っていたかと思っているうちに交替して黒人の先生がピアノをひき始めると、子ども達はびっくりした顔つきでしたが、一斉に歌いはじめました。

まもなく40分の授業が終了しました。この町は、公立の小学校は5年制、中学校は3年制、高等学校は4年制です。

しつけは家庭と教会が中心になってやっています。私立学校では、小人数だがしつけはきびしいそうです。

私は羽田空港を発つ時に桜木小学校の1年から6年までの図画作品を多数持参しましたが、校長先生に作品をプレゼントすると言ったら、「ベリーグッド、オービューティフル」と何でも言って握手され、包をほどき全員の先生方に一枚一枚見せて紹介されました。

その彼女の顔と目に誠意があふれていました。そして彼女が「ミスター大塚、帰りまでにこちらの児童の作品をおわたしします」と話されました。私はこれで一安心しました。それから各教室を見ました。ある教室では算数をしていました。女の先生が能力別のグループ学習を指導していて、自分の近くのテーブルへ



ダリースクール3年生 図画勉強風景

4. 5人を呼び寄せて指導していました。

- 1) 体育館が遊戯場にも講堂にもなる。
- 2) 宗教教育と家庭教育のしつけが徹底していて、きちんとしている。
- 3) したがって生活指導主任はいらない。
特に1クラスの人数は25人～30人である。
- 4) 日本では全部一律の教育方法内容であるが、ここは子どもが学校に入った時から1人1人の目標がちがい、カリキュラムがちがい、指導方法がちがっている。

と話しているのに感心しました。



サンフランシスコ市
市役所前にて筆者

片 々 草

■ 朝日新聞社が、心身ともに健康な児童を表彰すること43回、健康教育の場として優良な学校を表彰すること28回に及んでおり、わが社は、学童の健康増進を意図して、健康教育誌を発刊(S. 31)以来、毎年この健康優良学校・児童の特集号を編集して全国の心ある方々のご高覧に供してきました。

■ 今年もこの刊行にあたり、朝日新聞社論説委員(元文部大臣)永井道雄先生のご所見を「朝日新聞家庭便利帳 78.2」から抜すいさせていただきます。

昨年、私は選出校の先生や児童と実際に会って話し合ってみたのですが、健康優良児とは何か、それはどのようにして選ばれるか、ということがよくわかったように思います。たとえば、ある健康優良児に選ばれた学童の学校では、「オアサス運動」が、うまく指導されているのです。オはおはようのオ、アはありがとうのア、サはさようならのサ、スはすみませんのスです。こういう言葉を日常生活の中で、親子の間でも、教師と生徒の間でも、友人同志の間でも、けじめをつけていく運動を徹底させていたということです。

健康優良児とは、単に肉体が健康だというだけではダメで、体力、気力があり、さらに精神も健全でなくてはならないのです。全国から選ばれた優良児たちは、さすがにバランスのとれた子ども

ばかりで、見ているうちに、私は、かつての日本を築いた一人、嘉納治五郎の小型の人間を見ているような錯覚に陥ると同時に、大きな感銘を受けました。

現代人の体位の低下、モラルの乱れを嘆くより、こうした子どもたち、そして、子どもたちを育てる先生方の力に、日本の明るい将来を期待したいものです。

■ 永井先生のように健康優良児を見ている限りにおいては、明るい将来が期待されましょう。またその期待が実現することを願わずにはおられません。

■ 今年の大学志望に、教育学部が急増している現象は、まず、期待される先生が多くなる前提でしょうし、それが、期待される人間形成の教育振興につながることでしょう。

■ 例年のことながら、この特集号編集には深い感銘を受けます。

事の成るは、その成るの日に成るのではないとの名言どおり、その遠い日から耕された土壌の中から咲いた栄光の花を称賛すると共に、今後の充実を期待いたします。

お忙しい時間を割いて、珠玉の原稿をお寄せいただき、ありがとうございました。(係)

昭和52年度健康優良学校・児童名簿

健康優良学校		健康優良児童	
十二 学 級 以 上	日本一 愛知県瀬戸市立下品野小学校 特選 静岡県浜松市立伊佐見小学校 富山県黒部市立石田小学校 宮崎県小林市立南小学校 広島県広島市立千田小学校 都道府県代表校代表 千葉県銚子市立飯沼小学校	男	日本一 鬼海 武俊 山形県寒河江市立寒河江小学校 特選 高橋 将樹 秋田県北秋田郡鷹巣町立綴子小学校 小松崎 守 茨城県水戸市立上中妻小学校 杉高 浩 富山県射水郡下村立下村小学校 深沢 准 山梨県山梨市立加納岩小学校 武市 康志 神奈川県横浜市立桜岡小学校 国枝 秀樹 愛知県知多市立新知小学校 栗本 幸一 山口県下関市立山の田小学校 綾 秀基 香川県香川大学教育学部附属坂出小学校 森崎 雅智 大分県大分市立南大分小学校
	十一 学 級 以 下	女	日本一 丸野多恵子 鹿児島県姶良郡牧園町立牧園小学校 特選 金野 聡子 秋田県鹿角市立十和田小学校 水口 欣 山形県鶴岡市立大山小学校 小松 章子 福島県会津若松市立城西小学校 亀岡 真美 茨城県結城市立結城小学校 中村 美保 鳥取県気高郡青谷町立日置谷小学校 山口千賀子 島根県隠岐郡西郷町立西郷小学校 斎藤 郁巳 静岡県富士宮市立東小学校 中野 敬子 高知県土佐市立北原小学校 上原 尚子 沖縄県中頭郡中城村立中城小学校

健康教育第七十四号

昭和五十三年三月二十日
昭和五十三年三月二十五日
発行

発行人集

清水常一

発行所

河合製薬株式会社学術部

東京都中野区新井二丁目一八
電話東京三八五三一(一八代)

健康づくりに！ カワイのビタミン剤

カワイ肝油ドロップ

1粒中 { ビタミンA 2,000国際単位
 ビタミンD₂ 200国際単位

カワイ肝油ドロップC22

1粒中 { ビタミンA 2,000国際単位
 ビタミンD₂ 200国際単位
 ビタミンC 20mg

カワイカンエドロップM

1粒中 { ビタミンA 2,000国際単位
 ビタミンD₂ 200国際単位
 リン酸水素カルシウム 65mg

アドロップC

1粒中 { ビタミンA 2,000国際単位
 ビタミンD₂ 200国際単位
 ビタミンC 30mg

給食
強化剤

アドリッチ

1g中 { ビタミンA 50,000国際単位
 ビタミンD₂ 5,000国際単位

カワイ肝油ドロップC20

1粒中 { ビタミンA 1,000国際単位
 ビタミンD₂ 100国際単位
 ビタミンC 20mg



河合製薬株式会社

東京都中野区新井2丁目51-8